

## 第1回被災地情報交換会

平成26年11月6日（木）午前11時30分 下閉伊郡山田町長崎 魚河岸

参加者 伊藤重治・吉津賢次郎・横田博安（魚河岸）・大上悟（大寿司）・  
佐々木良男（よし寿司）

地震・津波・火災の被災で店舗も住宅も失った。その後、内陸部に避難しながら仮店舗で営業していた。震災から3年半の経過の後に、道路も仮道路、上・下水道の工事もこれからで建設機械・大型ダンプ等砂ぼこりを上げ走る街。まだまだ営業ができるような環境ではない。しかし、故郷への強い思いで、山田町での再建を決意。役場とのやり取り大変だったが、地元再建の熱い思いでクリアしオープンへと至った。

先代の父は再建を見ることなく他界。

地元の生活者が、折々に利用できる店を提供していかなければと強い思いを感じた。



## 第2回被災地情報交換会

平成26年11月17日（月）午後2時 宮古市保久田 よし寿司

参加者 伊藤重治・吉津賢次郎・高橋剛一・佐々木良男（よし寿司）・  
大友正二（魚正）・大上悟（大寿司）・安藤秋司（ふく留）

宮古市で営業しているよし寿司は、東日本大震災津波によって、店舗が全壊に近い状況であった。その後、4ヶ月ほどで営業を再開した。現在街の状況は、相変わらず工事関係者が多く店のお客さんも同様である。

店の売上については、昨年と比較してあまり落ちていない夏場の観光客の増加。さらに震災前よりも良くなっていて消費税増税の影響はあまりない。ただ、消費税の関係でメ

ニューとか価格を少し変えた。今後、復興工事終了・震災の風化により売上減少が懸念される。

地元の魚の仕入れについては、不安定な状態で魚種がかわり減った。

雇用については、募集しても集まらない状態で、地元の人口が減り被災して地元を離れている人達がなかなか戻ってこない。

今後の店への設備投資については、世代交代が近づいているので自分自身ではまだ予定していない。

### 第3回被災地情報交換会

平成26年11月25日（火） 午前11時30分 大船渡市盛町 勇駒鮨

参加者 伊藤重治・吉津賢次郎・高橋剛一・千田弘治（勇駒鮨）・細田勝夫（一助）・遠藤文男（竹すし）

盛駅の前で営業している。東日本大震災の際は、半壊の状態であった。街の中（海沿い）は、土地をかなり嵩上げしている。工事関係者は多いが町は静かである。

以前は、復興工事関係者や観光客が多かったが、この頃は町の人達が増えたように見える。が、町の人達はギャンブル等にお金を使っているようで店にはなかなか来ない。残念ではあるが、震災前のあまり活気のない頃に戻っているし、去年の今頃に比べても売り上げが落ちている。

その中で、消費税増税にも関わらず値上げをせずに内税でそのまま営業している。魚の仕入れは、あまり種類が変わっていない。値段は安くなっている。

常連客が減り、設備投資等は全く考えていない状態でむしろいつ店を閉めようかと思っている。

今後はもっと厳しくなると予想する。



## 第4回被災地情報交換会

平成26年12月1日(月) 午後2時 釜石市鈴子町 竹すし

参加者 伊藤重治・吉津賢次郎・高橋剛一・遠藤文男(竹すし)・細田勝夫(一助)・千田弘治(勇駒鮨)

### 釜石市 竹すし

震災で店舗流出、鈴子町仮設店舗にて営業をしている。

待全体の雰囲気は沈滞ムードで活気がない。工事関係者も長期間になっているのでスーパー等で買い物を済ませ、外食には至らない。

しかし、街中にホテルが完成。遠方からのお客様が増加した。しかし、今後は人口減少、高齢化で地元のお客様が減少。

仮設店舗を出て、震災前の繁華街で再開したいが、戻って営業している店も少なく、地盤沈下により高潮・大雨による冠水などで、営業に支障があるため戻れない。

### 釜石市 一助

自宅を一部改装し営業中、工事関係者も来店するが、やはり地元の人に来店して欲しいが、年々減少している。仕入れも魚の種類も変わったし、震災の影響でサケの放流をしなかったため、サケ、イクラが少ない。雇用の状態は業種によって給料に差があり、給料の安い業種は働き手が少ない。設備投資については、人口減少・復興工事終了等で売上減少の不安もあるため、現状を維持するしかない。できれば元の場所で営業したい。

一助は元の場所での営業を考えているものの現状を維持する状態。



## 第5回被災地情報交換会

平成26年12月3日(水) 午後2時30分  
盛岡市内丸16-15 内丸ビル4階組合事務所

参加者 伊藤重治・吉津賢次郎・高橋剛一・泉舘時子

盛岡市内での営業状態は、選挙の影響で予約のキャンセルが多い。そのため、売上については、震災前よりも落ちている。出前が激減した。その反面、お客さん一人当たりの単価が高くなっており、年末に向けて商品の数を絞る。

消費税増税については、値段はそのままにして税別になっている。

今後の経営の課題としては、売上の上昇を確保したいが仕入れが高いのでなかなか苦しい状態である。

### 県南地区 一関 小松寿司

震災後、売上状況が悪化し、親子で営業していたが店は父親に任せ、外で仕事をする事を決断。しかし父親他界、店も閉店し組合も脱会。現在金融関係と債務処理調整中である。